

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 3 NUMBER 4 2024



巻頭言 令和6年度研究会大会の見どころ

令和6年度研究会大会

実行委員長 西省吾（測色研究会主査 / 大阪電気通信大学）

令和6年度研究会大会を、11月30日(土)・12月1日(日)の2日間、オンライン形式で開催いたします。2013年に秋の大会が新設されて以来、今年でこの大会も10回目の節目を迎えました。日本色彩学会では、春の全国大会に加えて秋の大会を新設することで、地方会員や若手研究者の発表機会の増加、そして研究会の活性化を目指してまいりました。この10回の大会の歩みの中で、活動中の研究会も変遷を重ね、現在では10研究会が精力的に活動を続けております。研究会大会は、研究発表やワークショップなど、色彩学の多岐にわたる分野を専門的かつ多角的に議論する場として、その意義を深めてきました。また、2020年からはオンライン開催に移行し、地理的制約が解消されたことで、より多くの方々にご参加いただける場として新たな可能性を切り拓いてきました。本大会もオンライン開催の利便性を最大限に活かし、遠方からでも気軽にご参加いただけるよう準備を整えております。

初日の11月30日には、7研究会による合同研究発表会を開催し、最新の研究成果が発表されます。発表内容には、音の印象を色で表現するための色システムの構築、欧州におけるゴミ分別システムとゴミ箱デザインの調査、ランダムパターンデザインの調和度評価とアルゴリズムの提案、実物と画像の光沢感・粗さ感の比較と再現、Carole Jacksonのパーソナルカラー理論に基づくカラーパレットの検討、肌のうるおい感に影響する画像統計量の特定と視覚評価、少数派色覚の独自の色表現の探求、色彩理論に基づく配色カルタ教材の開発と評価、絵画画像の色変化を計量する分割手法の改良、メタメリズムを活用した照明による色彩演出技術の開発と実装、オストワルト表色系を基盤とした配色理論の教育的応用など、多彩な研究が含まれています。聴講者の皆

様にとっても、新たな発見や学びの場となることを願っております。また、各研究会の活動紹介も実施し、学会員の皆様に各研究会の特色ある取り組みや活動の様子を知っていただく貴重な機会と確信しております。夕刻にはオンライン交流会も予定しており、参加者の皆様には気軽にご参加いただければ幸いです。

2日目の12月1日には、環境色彩研究会が「商店街」をテーマに見学報告会を実施いたします。この報告会は、これまでのWebミーティングの拡大版として企画され、谷根千、浅草、下北沢の商店街を環境色彩の視点から考察する貴重な機会です。オンラインで意見交換を行い、多様な視点から「色彩」と「商店街」の関係性を深く掘り下げていく予定です。

午後には、「顔」をテーマとした講演会『顔を探求する：科学で解き明かす顔の知覚・認知・感性』が開催され、若手研究者4名が、ヒトの顔から絵画、ロボット、絵文字の顔に至るまで、多角的な視点から「顔」についての知見を発表します。普段何気なく目にしていく「顔」について、顔の知覚や認知、そして感性の奥深さを考える良い機会となるでしょう。

本大会には7つの研究会が参加しておりますが、研究会に未所属の方もご参加いただけるオープンな場です。この機会に各研究会の活動に関心を寄せていただき、今後の研究や実践にお役立ていただければ幸いです。また、ご興味のある研究会がありましたら、お気軽にお問い合わせください。複数の研究会への加入も歓迎しております。この大会が、皆様に研究会活動への理解を深めていただくきっかけになればと願っております。多くの皆様にご参加いただけることを、実行委員一同、心よりお待ちしております。